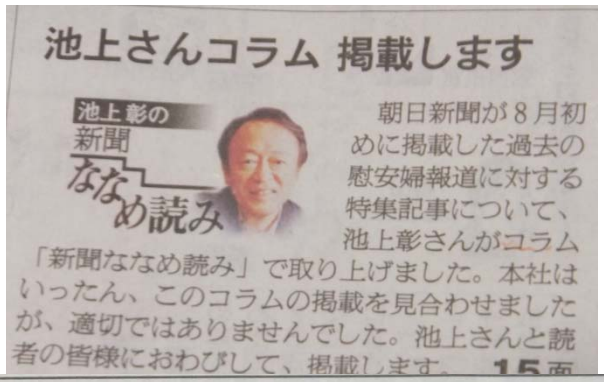
池上彰「新聞ななめ読み」

このところ話題なのが、朝日新聞に月１回連載してきた池上彰「新聞ななめ読み」だ。最初ネットでみて、よく分からなかったが、朝日新聞が「慰安婦報道に対する特集記事」に対する池上さんのコラム掲載を見合わせたという。心配になってきた。



池上さんコラム 掲載します

池上彰の 新聞 ななめ読み

朝日新聞が８月初めに掲載した過去の慰安婦報道に対する特集記事について、池上彰さんがコラム「新聞ななめ読み」で取り上げました。本社はいったん、このコラムの掲載を見合わせましたが、適切ではありませんでした。池上さんと読者の皆様におわびして、掲載します。 15面

その後の報道により「事実」であることを知り、正直いって驚いた。なぜ、人気の「コラム」掲載を見合わせたのか、長年にわたる朝日新聞「愛読者」として理解できなかった。『災後の新聞』を世に問うた者として(残念ながらあまり評判になっていないが)、黙ってはおれない。

慰安婦問題 どう伝えたか

読者の疑問に

池上彰の 新聞 ななめ

日韓関係 な

朝日新聞は過去の慰安婦報道について、8月5、6日付朝刊に計4ページにわたる検証記事を掲載した

写真のように、9 月 4 日朝刊 1 面に「コラム掲載します」とあり、朝早く新聞を目にして、ひとまずほっとした。15 面にはこの間の経過が簡単に記してあり、池上「コラム」が全文掲載されていた。

池上さんの言いたいのは、朝日の「慰安婦報道検証訂正、遅きに失したのでは」「過ちを訂正するなら、謝罪もするべきではないか」ということのようだ。たしかに８月初めの朝日新聞「特集記事」に対する厳しい批判が書かれているが、なぜ掲載見合わせまで判断したのか理解できない。人気の池上さんらしい「新聞ななめ読み」なのだから、どうして批判を「批判」として率直に受け入れられなかったのか。

察するところ、「特集記事」以降いちだんと強まった朝日「バッシング」が、じわりと影響しているのではないか。心配なのは、朝日の担当者が委縮してしまうことである。『ジャーナリスト』8 月号の「月間マスコミ評」でも書いたように、朝日に限らないが、裏付け取材が不十分なまま報道を続けたことの責任は免れない。過去の記事を撤回するのは当然のことだ。だが、読売・産経や一部週刊誌のように「慰安婦問題」という歴史的事実まで否定するのは許されない。この点で池上「コラム」は明確に指摘している。「朝日の記事が間違っていたからといって、『慰安婦』と呼ばれた女性たちがいたことは事実です。これを今後も報道することは大事なことです。」当然の指摘だ。

朝日「バッシング」は新聞の危機だと考える。新聞が「災後」でなく「最期」にならないためにも、朝日をはじめとした新聞の動きに注目したい。

(2014年9月6日)